

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
社会学 I	平成 25 年度	竹野富之	5	前期	学修単位 1	選

[授業のねらい]
グローバル化に適応・対応できるよう異文化理解の重要性を認識させ、違いを受け入れる姿勢を養う。そのために様々な分野から社会人類学の背景や歴史の流れを説明し日本とも比較しながら考察する。

[授業の内容]	
<p>全体の週において、教育目標 (A) (視野) (意欲) と、JABEE I (1) (a) 項目に該当する内容を講義する。</p> <p>第 1 週 社会人類学とは何か I ヨーロッパ植民地獲得競争と人類学</p> <p>第 2 週 社会人類学とは何か 2 人類学者の研究姿勢について</p> <p>第 3 週 社会人類学とは何か 3 オリエンタリズム批判と人類学</p> <p>第 4 週 社会人類学の研究方法について フィールドワークとは何か</p> <p>第 5 週 フィールドワークに実践方法 1 調査の前に準備すること</p> <p>第 6 週 フィールドワークに実践方法 2 質問票作りとインタビュー</p> <p>第 7 週 マレーシアのイスラーム 1 マレーシアの紹介</p> <p>第 8 週 中間試験</p>	<p>第 9 週 マレーシアのイスラーム 2 イスラームの基本的な教養について</p> <p>第 10 週 マレーシアのイスラーム 3 イスラーム共同体ウンマとは何か</p> <p>11 週 マレーシアのイスラーム 4 マレーシアの女性とイスラーム</p> <p>第 12 週 マレーシアのイスラーム 5 マレーシアの姦通罪と女性</p> <p>第 13 週 日本人とイスラーム 1 少数派としてのイスラーム教徒</p> <p>第 14 週 日本人とイスラーム 1 イスラーム教徒として日本に暮らすこと</p> <p>第 15 週 まとめ 日本の国際化と社会人類学の重要性について考える</p>

[この授業で習得する「知識・能力」]	
<p>1. 現在の社会人類学の元となる背景を理解している。</p> <p>2. それぞれの文化のかたち・特色を知っている。</p>	<p>3. 文化研究の方法論を知っている。</p> <p>4. 各の文化の源である宗教の影響を理解している。</p>

[この授業の達成目標]	[達成目標の評価方法と基準]
<p>言語の重要性を認識し、欧米諸国の背景や歴史を踏まえ、それぞれの文化の具体的な形を理解している。</p>	<p>上記の[知識・能力] 1～4 を網羅した問題を各定期試験とレポートで出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各[知識・能力]の重みの目安は 1, 2, 4 を 30%, 3 を 10% とする。合計点 60% の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>

[注意事項] 授業中適宜に課題を与え、レポートを提出してもらおう。
本教科は専攻科で学習する国際関係論、経営学の基礎となる教科である。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]
本教科は経済学 I・II、法学 I・II を基礎とする教科である。

[自己学習] 授業で保証する学習時間と予習・復習 (中間試験と定期試験のための学習も含む) 及び課題・レポート作成に必要な標準的な学習時間の総計が 45 時間に相当する学習内容である。

教科書：なし 参考書：適宜紹介

[学業成績の評価方法および評価基準]
前期中間、前期末の 2 回の試験の平均点を 70%, 課題 (レポート) 30% として評価する。
[単位修得要件] 与えられたレポートを提出し、学業成績で 60 点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
社会学Ⅱ	平成 25 年度	前島訓子	5	後期	学修単位 1	選択必修

[授業のねらい] グローバル化の世界的浸透は、私達の生活や生活を取り巻く社会にどのような影響を及ぼしてきたのだろうか。私たちは日々他者とコミュニケーションを図り、人間関係を築き、無意識の中で生活をしている。私達が普段気を留めていない何気ないやりとりや生活、現代社会が抱える様々な社会的問題が、どのように取り上げられ、議論されているのか。この授業では、社会学の主要な視点を紹介し、またいくつかの具体的なトピックを取り上げながら私達の今について考える。

[授業の内容]

第1週 「社会」とは何か？

第2週 「社会」を捉える視点1—社会をモノとして捉える

第3週 「社会」を捉える視点2—社会を相互行為として捉える

第4週 「社会」を捉える視点3—個人から社会を捉える

第5週 産業と人間1— 時間と人間

第6週 産業と人間2— 組織と労働

第7週 産業と人間3— 消費と現代社会

第8週 中間試験

第9週 「社会」を捉える視点4— システムとしての社会

第10週 「社会」を捉える視点5— 葛藤にみる社会

第11週 「社会」を捉える視点6— 集合的行為

第12週 産業と地域社会1—犯罪と逸脱

第13週 産業と地域社会2—監視社会

第14週 産業と環境1—技術と環境

第15週 産業と環境2—リスクと運動

[この授業で習得する「知識・能力」]

1. 「社会」を捉える視点としての方法論を理解できる。
2. 時間や組織や消費といったトピックを、幅広い視点から捉えることができる。
3. 情報化が私達の生活に果たしている役割とそのメリット、デメリットが理解できる。

4. 社会の秩序や逸脱、犯罪を捉える社会学的視座を理解できる。
5. 産業構造の変化にともない、地域社会に生じている問題と問題をめぐる動きについて理解できる。
6. 産業化が環境に及ぼした影響とそれに対する社会の対応が理解できる。

[この授業の達成目標]

普段無意識にすごしている生活社会を相対的に捉え、私達を取り巻く社会の変化、グローバル化といった新たな時代に伴い直面している諸問題について、様々な角度から捉え、考えることができること。

[達成目標の評価方法と基準]

「知識・能力」1～6を網羅した問題を中間試験と定期試験で出題して目標の達成度を評価する。また、試験以外に、授業内において課す小レポート課題等を通して、授業への積極的な参加と講義内容の理解、習得状況を評価する。

[注意事項] 授業時に数回の小レポートを課す。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 普段何気なく生活していることや、また自分たちの周りに生じている様々な問題や出来事に関心を向け、疑問をもっておく。[本教科は経済学Ⅰ・Ⅱ、法学Ⅰ・Ⅱを基礎とする教科である。](#)

[自己学習] 授業内での講義を手がかりとしながら、普段の生活や自身の周囲で生じている出来事を、単なる出来事として済ませてしまうのではなく、さまざまな角度から考えることが求められる。

教科書： 特に指定しない。授業時に適宜、資料を配布する。

[学業成績の評価方法および評価基準]

中間試験と定期試験(期末試験)の結果を80%、授業時に課す小レポートを20%として評価する。

[単位修得要件]

中間試験と定期試験で60点以上取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語V	平成25年度	平山 欣孝	5	通年	学修単位 2	必

[授業のねらい]

英語 I, II, III, IV で得た英語の知識技能を活用して, 理工系分野の英文を読み進めながら, より高度な英語のリーディング能力を養うことを目指す。また、広い視野と、的確に情報を受信・発信する基礎力を養うことをねらいとする

[授業の内容]

すべての内容は、学習・教育目標 (A) <視野> <意欲> 及び (C) <英語>, および JABEE 基準 1 (1) (a), (f) の項目に相当する。

前期

- 第1週 Introduction 授業の概要について
Unit 1 Nuclear Rescue Robots (1)
- 第2週 Unit 1 Nuclear Rescue Robots (2)
- 第3週 Unit 2 Dr. Henry's Dilemma (1)
- 第4週 Unit 2 Dr. Henry's Dilemma (2)
- 第5週 Unit 3 Human Experimentation (1)
- 第6週 Unit 3 Human Experimentation (2)
- 第7週 Unit 4 Professional Responsibility
- 第8週 中間試験
- 第9週 試験の復習
Unit 5 Chasing a Dream (1)
- 第10週 Unit 5 Chasing a Dream (2)
- 第11週 Unit 6 Made "with" Japan (1)
- 第12週 Unit 6 Made "with" Japan (2)
- 第13週 Unit 7 Eco Energy (1)
- 第14週 Unit 7 Eco Energy (2)
- 第15週 Unit 8 Specialist or Politician

後期

- 第1週 試験の復習
Unit 9 To Err is Human (1)
- 第2週 Unit 9 To Err is Human (2)
- 第3週 Unit 10 No Water? Technology to the Rescue (1)
- 第4週 Unit 10 No Water? Technology to the Rescue (2)
- 第5週 Unit 11 The Dedication of an Oyster Fisherman
Saves a Forest (1)
- 第6週 Unit 11 The Dedication of an Oyster Fisherman
Saves a Forest (2)
- 第7週 Unit 12 Foundation of Science Crumbling
- 第8週 中間試験
- 第9週 試験の復習
Unit 13 The Kanemi Yusho Incident (1)
- 第10週 Unit 13 The Kanemi Yusho Incident (2)
- 第11週 Unit 14 TOKYO SKYTREE (1)
- 第12週 Unit 14 TOKYO SKYTREE (2)
- 第13週 Unit 15 Learning From Failures (1)
- 第14週 Unit 15 Learning From Failures (2)
- 第15週 総復習

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語Ⅴ（つづき）	平成25年度	平山 欣孝	5	通年	学修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各回において取り上げられる英文の内容を理解できる。 2. 各回の英文の流れをつかみ、要点を正確に理解できる。 3. 読んだ英文の内容に関する設問に答えることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 4. 各回の英文に出てくる単語・熟語の意味および慣用表現が理解できる。 5. 各回の英文に含まれる語法、英語表現を応用して基本的な英文を作ることができる。
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>英文の内容を理解し、その概要を把握でき、使用されている語彙や慣用表現を理解し、それらのうち基本的なものをを用いることができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～5の確認を中間試験、期末試験、小テスト、課題により評価する。1～5に関する重みはほぼ同じである。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>毎回の授業分の予習をしたうえで、積極的に授業に参加すること。授業には必ず英和辞典（電子辞書でも可）を用意すること。</p> <p>本教科は専攻科の技術英語Ⅰに強く関連する教科である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>4年次までに学習した英単語、熟語、英文法の知識。</p>	
<p>[自己学習] 授業で保証する学習時間と、予習・復習（中間試験、定期試験、小テストのための学習も含む）及び課題作成に必要な標準的な学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。</p>	
<p>教科書：「総合英語 エクスプローア」（三修社）</p> <p>「理工系学生のための必修英単語3300」成美堂）</p> <p>参考書：「高校総合英語 Harvest」（桐原書店）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・学年末の試験結果を80%、小テストや課題の評価を20%として、それぞれの学期毎に評価し、これらの平均値を最終評価とする。但し、学年末試験を除く3回の試験について60点に達していない学生については再試験を行う場合があり、再試験の成績が該当する期間の成績を上回った場合には、60点を上限としてそれぞれの期間の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
実用英語 I	平成 25 年度	Mike Lawson	5	前期	学修単位 1	選

<p>[授業の目標]</p> <p>Students will develop their cognitive and practical English language ability by practicing English-language speech writing techniques. Students will also work on their ability to use English in a “real-world” fashion by speaking English during each class session.</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>The following content conforms to the learning and educational goals: (A) <Perspective> [JABEE Standard 1(1)(a)], and (C) <English> [JABEE Standard 1(1)f].</p> <p>Week:</p> <p>1: Introduce class requirements 2: Choose topic 1, develop outline, give speech 3: Choose topic 2, develop outline, give speech 4: Choose topic 3, develop outline, give speech 5: Choose topic 4, develop outline, give speech 6: Choose topic 5, develop outline, give speech 7: Review for Midterm exam 8: Midterm Exam: This exam tests objective “1”and “2”listed in the syllabus.</p>	<p>Week:</p> <p>09: Discuss Midterm exam results 10: Choose topic 6, develop outline, give speech 11: Choose topic 7, develop outline, give speech 12: Choose topic 8, develop outline, give speech 13: Choose topic 9, develop outline, give speech 14: Choose topic 10, develop outline, give speech 15: Review for Final exam 16: Final exam: This exam tests objective “1”and “2”listed in the syllabus.</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. To gain cognitive and practical understanding of English-language outline creation techniques. 2. To think of topics and supporting points in developing English-language speech outlines</p>	<p>3. To present speeches using the English language. 4. To develop “real-world” English skill.</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>The objectives of this course are to provide students with cognitive and practical experience in English-language oral presentation creation strategies and speaking skill, and to emphasize and improve group cooperation in meeting weekly objectives.</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>The abilities of students to apply techniques of English-language outline creation will be almost evenly evaluated through the use of two exams (a midterm and exam and a final exam). Students will have attained the goals provided that they have earned 60% of the total points possible for this course.</p>
<p>[注意事項]</p> <p>1. Please visit my website (http://www-intra.srv.cc.suzuka-ct.ac.jp/genl/Lawson/) for information related to this class. 2. You may contact me at the following address: lawson@genl.suzuka-ct.ac.jp. 3. This course will form the basis for the course Practical English 2.</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>An understanding of basic English syntax and grammar achieved in the coursed English IVA or IVB.</p>	
<p>[レポート等] The total time necessary for students to acquire an understanding of the course is 45 hours, including classroom time and study time outside of the classroom.</p>	
<p>教科書： 1. Material as distributed in class.</p>	
<p>[学業成績の評価方法及び評価基準]</p> <p>Students must obtain at least 60% of the total possible points in order to receive 1 credit.</p> <p>[単位修得要件]</p> <p><u>Method of Evaluation</u>: 50% Midterm Exam, 50% Final Exam. Students may have their final scores reduced for lack of participation during classes.</p>	

授業科目名	開講年度	担当教官名	学年	開講期	単位数	必・選
実用英語 I	平成 25 年度	Mike Lawson	5	後期	学修単位 1	選

<p>[授業の目標]</p> <p>The main focus for students will be a continuation of the first semester coursework with emphasis on English-language presentation script creation techniques, with a minor emphasis on speaking techniques, such as practical and useful words, phrases and expressions, as well as effective nonverbal techniques, such as eye-contact, gestures etc., through weekly in-class English-language oral presentations.</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>The following content conforms to the learning and educational goals: (A) <Perspective> [JABEE Standard 1(1)(a)], and (C) <English> [JABEE Standard 1(1)f].</p> <p>Week:</p> <p>1: Introduce class requirements 2: Choose topic 1, develop outline, give speech 3: Choose topic 2, develop outline, give speech 4: Choose topic 3, develop outline, give speech 5: Choose topic 4, develop outline, give speech 6: Choose topic 5, develop outline, give speech 7: Review for Midterm exam 8: Midterm Exam: This exam tests objective “1”and “2”listed in the syllabus.</p>	<p>Week:</p> <p>09: Discuss Midterm exam results 10: Choose topic 6, develop outline, give speech 11: Choose topic 7, develop outline, give speech 12: Choose topic 8, develop outline, give speech 13: Choose topic 9, develop outline, give speech 14: Choose topic 10, develop outline, give speech 15: Review for Final exam 16: Final exam: This exam tests objective “1”and “2”listed in the syllabus</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. To produce logical speech frameworks with an increased emphasis on speaking skills, such as practical and useful words, phrases and expressions. 2. To develop effective nonverbal techniques, such as eye-contact and hand gestures. 3. To improve English-language oral presentation script creation techniques and speaking skill through classroom exercises and speaking presentations.</p>	
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>The objectives of this course are:</p> <p>1. To help students refine their ability to select an interesting presentation topic, 2. To improve students’ skill in outlining techniques, and; 3. To improve upon students’ ability to speaking English with useful words, phrases, hand gestures, eye-contact, etc.</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>Students’ abilities 1 to 3 will be almost evenly evaluated through the use of two exams (a midterm and exam and a final exam). Students will have attained the goals provided that they have earned 60% of the total points possible for this course.</p>
<p>[注意事項]</p> <p>1. Please visit my website (http://www-intra.srv.cc.suzuka-ct.ac.jp/genl/Lawson/) for information related to this class. 2. You may contact me at the following address: lawson@genl.suzuka-ct.ac.jp. 3. This course will form the basis for the course General English I (1BD).</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>An understanding of basic English syntax and grammar achieved at English IVA or IVB.</p>	
<p>[レポート等] The total time necessary for students to acquire an understanding of the course is 45 hours, including classroom time and study time outside of the classroom.</p> <p>教科書： 1. Material as distributed in class.</p>	
<p>[学業成績の評価方法及び評価基準]</p> <p>Students must obtain at least 60% of the total possible points in order to receive 1 credit.</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>Method of Evaluation: 50% Midterm Exam, 50% Final Exam. Students may have their final scores reduced for lack of participation during classes.</p>	

授業科目	開講年度	担当教員	学年	開講期	単位数	必・選
中国語 I	平成 2 5 年度	川西, 孫	5	前期	学修単位 1	選

<p>[授業のねらい]</p> <p>近年多くの企業が中国に進出し、英語に次ぐ外国語として、中国語の重要性も増している。中国出身の教員のもとで、正確な発音、基本的文法を習得することにより、中国語による初歩的なコミュニケーションができるようになる。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>全ての内容は学習・教育目標 (A) <視野>及び J A B E E 基準 1 (1) (a) の項に相当する。</p> <p>第一週 中国語の概況 発音記号 四声及び単母音</p> <p>第二週 子音 有気音と無気音, そり舌音</p> <p>第三週 複母音 子音と複母音の組み合わせ</p> <p>第四週 「n」 [n g] を伴う鼻音の聞き分け及び練習</p> <p>第五週 第一課 名前の尋ね方及び答え方</p> <p>第六週 「是」の使い方, 自己紹介文</p> <p>第七週 第二課 指示代名詞「这」の使い方, 「不」の変調</p> <p>第八週 前期中間試験</p>	<p>第九週 第三課 基本的な文型①「動詞+目的語」, 「所有」を表す「有」の使い方を理解し, 応用できる。</p> <p>第十週 第四課 指示代名詞「这个」の使い方及び頻繁に使われている数量詞</p> <p>第十一週 文型② 形容詞述語文を理解し, 応用できる。「几」と「多少」の違いを理解する。</p> <p>第十二週 第五課 数字, 日付・時刻を尋ね方と答え方を身に付ける。</p> <p>第十三週 「動作の時点」を言う表現を応用できる。</p> <p>第十四週 文型③ 動詞の完了形を理解し, 応用できる。</p> <p>第十五週 「所在」を表す「在」の使い方及び助動詞「想」の使い方。</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 四声, ピンインの発音できること。</p> <p>2. 四声, ピンインを聞き分けることができている。</p> <p>3. 自己紹介することができる。</p>	<p>4. 基本的な文型 (文型①～③) 理解し, 運用できる</p> <p>5. 動詞「有」と「在」の違いを理解し, 運用できる</p> <p>6. 指示代名詞「这」, 疑問詞「什么」「谁」を把握する。</p> <p>7. 助動詞「想」の使い方を理解し, 運用できる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>中国語の発音表記の仕組みを理解し, 一つ一つをきちんと発音し, 聞き取ることができる。</p> <p>基本的語順を理解し, 簡単な文を作ることができる。</p> <p>「自己学習」 授業で保証する学習時間と予習復習に必要な標準的な学習時間の総計が 4 5 時間に相当する学習内容である。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「この授業で習得する知識・能力」 1～7 の習得の度合いを中間試験, 期末試験により評価する。各項目の重要性は同じである。試験問題のレベルは 1 0 0 点法により 6 0 点以上の得点を取得した場合に目標を達成したことが確認できるように設定する。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>教科書付属の CD を繰り返し聴き, 発音すること。この授業は後期開講の中国語 II へつながる。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>特になし</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>授業に関連した小テスト及び課題(レポート等)を課す。</p>	
<p>教科書：教科書 最新 2 訂版 中国語初めての一步 (白水社)</p> <p>参考書：(授業時に 随時紹介する)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>中間・期末試験を 8 0 %, 提出物, 小テストを 2 0 % として, これらの平均値を最終評価とする。再試験は原則として行わない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>与えられた課題, 提出物を全て提出し, 学業成績で 6 0 点以上を取得すること。</p>	

授業科目	開講年度	担当教員	学年	開講期	単位数	必・選
中国語Ⅱ	25年度	川西, 孫	5	後期	学習単位 1	選

<p>[授業のねらい]</p> <p>中国語Ⅰに引き続き、基本的文型と文法事項を取得し、前期よりやや高度な日常会話ができることを目指す。合わせて中国の文化、社会事情を紹介することにより、中国語に対する理解をより深める。</p>	
<p>[授業の内容]</p> <p>すべての内容は学習目標(A)〈視野〉及びI A B E E基準1(a)の項に相当する。</p> <p>第一週 第七課 「存在」を表す「有」、前置詞としての「在」の使い方。家族構成の尋ね方。</p> <p>第二週 前置詞「离」の使い方、反復疑問文</p> <p>第三週 第八課 「時間量」を表す言葉の紹介及び実践練習</p> <p>第四週 前置詞「从」、助動詞「得」の使い方</p> <p>第五週 第九課「経験」を表す「过」の使い方</p> <p>第六週 「是～的」の構文の使い方、会話練習</p>	<p>第七週 前置詞「跟」「给」の使い方、全体復習</p> <p>第八週 中間試験第九週 第十課助動詞「能」「会」の使い方及び実践練習。</p> <p>第十週 「動作の様態」を言う表現及び会話練習</p> <p>第十一週 動詞の重ね方の三つの表現</p> <p>第十二週 第十一課 「動作の進行」を表す表現、会話及び連動文</p> <p>第十三週 選択疑問文、目的強調文</p> <p>第十四週 第十二課「比較」の表現二つの目的語をとる動詞。</p> <p>第十五週 自己紹介のまとめ</p>
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 進行、経験、比較などの表現が理解でき、運用できる。</p> <p>2. 「動作の様態」の表現を理解し、運用できる。</p> <p>3. 「是～的」構文を理解し、運用できる。</p>	<p>4. 「時間量」と「時点」の違いを理解する。</p> <p>5. 前置詞「在」「从」「跟」「离」「给」それぞれの使い方を理解し、運用できる。</p> <p>6. 「有」「在」の違いを理解し運用できる。</p> <p>7. 簡単な会話ができる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>各文法事項を理解し運用できること。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>{この授業で習得する「知識・能力」} ①～⑦の習得する度合いを中間試験、期末試験、提出物により評価する。各項目の重要性は同じである。試験問題のレベルは100点法により、60点以上の得点を取得した場合に、目標を達成したことができるように設定する。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>毎回の授業分の予習をしたうえで、積極的に授業に参加すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>ピンイン、四声を発音でき、基本文型が理解できる。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>授業に関連した小テスト及び課題(レポート等)を課す。</p>	
<p>教科書：最新版2訂版 中国語初めての一步 (白水社)</p> <p>参考書：(授業時に随時紹介する)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>中間・期末試験を80%、提出物、小テストを20%として、これらの平均値を最終評価とする。再試験は原則として行わない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>与えられた課題、提出物をすべて提出し、学業成績で60点以上を取得すること</p>	